

教育研究業績

2019年5月1日

氏名 山田 裕生

学位 修士(体育学)

研究分野	研究内容のキーワード	
スポーツ科学	スポーツ心理学, メンタルトレーニング	
主要担当授業科目	メンタルトレーニング論	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材 講義用補助教材	平成 25 年 9 月	大阪体育大学健康福祉学部の講師として担当した「スポーツ心理学」(2年次配当, 半期, 2単位, 106名)の授業において, 授業内容に関する独自の教材を用意した. 当該教材を作成した目的は, スポーツ心理学に関する基礎的な知識を網羅した教材が必要であると感じたためであった. 授業の進行と共に当該教材を使用するための工夫として, 部分的に穴埋め形式を採用し, スライド繋がりを意識したものとなった. 当該教材に関して「全体像が分かりやすい」「見直したときに分かりやすい」「授業の内容が思い出しやすい」などのコメントがあった.
3 教育上の能力に関する大学等の 評価 大学実施の学生授業アンケート	平成 26 年 9 月～ 平成 27 年 3 月	大阪体育大学健康福祉学部の講師として担当した「スポーツ心理学」(2年次配当, 半期, 2単位, 106名)の授業について, 授業評価アンケートにおいて, すべての項目について学部平均を上回り, 高い満足度を示した(5段階評価中 4.1～4.4). 「私語を控え, 授業に集中し, 熱心に受講しましたか」「教員の授業への熱意は感じられましたか」「この授業を通じて新たなものの見方・考え方が習得できましたか」などの項目については, 5段階評価において 4.4 であった.

4 実務の経験を有する者についての特記事項		
平成 21 年スポーツメンタルトレーニング指導士会関東地区研修会	平成 22 年 3 月	高校生バスケットボール部への心理サポートについての実践報告を行った。
ブラインドパラスポーツシンポジウム 2016	平成 28 年 3 月	ブラインドアスリートに対する心理サポートについて、日本代表レベルへのサポート内容とその特徴について講演を行った。
公立中学校校外研修	平成 28 年 6 月	公立中学校の 2 学年の生徒に対して、メンタルトレーニングのレクチャーならびにアスリートのキャリアトランジションと関連する内容を実施した。
日本理学療法士協会主催中級障がい者スポーツ指導員養成講習会	平成 29 年 3 月	障がい者スポーツ指導員の資格取得を目指す理学療法士に対して、運動学習やメンタルトレーニングなどのスポーツ心理学全般に関する講義を実施した。
公立中学校校外研修	平成 29 年 5 月	公立中学校の 2 学年の生徒に対して、メンタルトレーニングのレクチャーを実施した。アスリートのキャリアトランジションについて触れ、キャリア教育と関連する内容を実施した。
東京都障害者アーチェリー協会強化合宿	平成 29 年 6 月	基本的な心理的スキルに関する情報提供と練習会におけるフォローアップを実施した。
平成 29 年スポーツメンタルトレーニング指導士会中国・四国地区研修会	平成 30 年 2 月	パラリンピックに関する心理サポートの実践報告を実施した。
5 その他		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要

<p>1 資格、免許</p> <p>中学校教諭専修免許状（保健体育）</p> <p>高等学校教諭専修免許状（保健体育）</p> <p>日本スポーツ心理学会認定 スポーツメンタルトレーニング指導士</p>	<p>平成 24 年 3 月</p> <p>平成 24 年 3 月</p> <p>平成 26 年 4 月</p>	<p>神奈川県教育委員会（平 23 中専修第 207 号）</p> <p>神奈川県教育委員会（平 23 高専修第 231 号）</p> <p>日本スポーツ心理学会（登録番号 1110 号）</p>
<p>2 特許等</p>		
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>パラリンピック種目に対する心理サポート体制の構築ならびにパラリンピック種目・オリンピック種目に対する心理サポートの実施</p> <p>リオパラリンピック期間の心理サポート体制の構築ならびに実施</p> <p>平昌パラリンピック期間の心理サポート体制の構築ならびに実施</p>	<p>平成 26 年 3 月～平成 30 年 3 月</p> <p>平成 26 年 3 月～平成 28 年 10 月</p> <p>平成 28 年 10 月～平成 30 年 3 月</p>	<p>パラリンピック種目を対象としたマルチサポート（パラリンピック）の立ち上げ時から関わり、冬季種目および夏季種目のパラリンピック日本代表チーム・選手に対する心理サポート活動に従事した。JISS の施設や国内外における強化合宿・競技大会への帯同を通して、心理サポートを実施している。また、平成 29 年度からはオリンピック種目についても心理サポートを実施した。</p> <p>リオパラリンピック期間中に現地で日本選手団をサポートする「ハイパフォーマンスサポート・センター（HPSC）」設置にあたり、心理分野の責任者として、現地調査、心理サポート計画の立案、人員配置、HPSC の環境整備を担当した。また、パラリンピック開催期間には、HPSC 内および選手村内にて心理サポートに従事した。</p> <p>平昌パラリンピック期間に現地で日本選手団をサポートする「ハイパフォーマンスサポート・センター（HPSC）」設置にあたり、心理分野の責任者として、心理サポート計画の立案、人員配置、HPSC の環境整備を担当した。また、パラリンピック開催期間には、HPSC 内および選手村内にて心理サポートに従事した。</p>
<p>4 その他</p>		

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書)				

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
リラクセーションに 関する一考察 (修士論文)	単著	平成 24 年 3 月	東海大学大学院	複合的なリラクセーションプログラムの 効果を検討することを目的として、大学生 競技者(39名)を対象にストレス下での 実験を実施した。その結果、副交感神経の 低下は確認されたが、他の指標との関連性 から、今後の研究の必要性が示唆された。
2013年度大阪体 育大学トレーニング 科学センター活動報 告	共著	平成 26 年 3 月	大阪体育大学紀要第 4 5 巻	学生の競技力向上を目的に総合的サポ ート活動を行う付置センターに関する活動 報告を行った。勉強会の運営やサポート活 動などを中心に、メンタルサポートの活動 報告を行った。 共著者：井川貴裕・ <u>山田裕生</u> ・ほか 17 名
リラクセーションに 関する一考察	共 著 (筆頭)	平成 24 年 3 月	九州スポーツ心理学会 第 25 回記念大会	大学生競技者(39名)に対し、リラクセー ションプログラムの効果を検討した。その結 果、統一した見解は得られなかったが、今 後の研究の必要性が示唆された。 共著者： <u>山田裕生</u> ・寺尾保・高妻容一
高校生バスケットボ ール部を対象とした 心理的サポートの実 践	共 著 (筆頭)	平成 24 年 8 月	日本体育学会第 63 回大 会	高校のバスケットボール部(29名)に対す る心理的サポートの効果を検討した。その 結果、心理的競技能力診断検査の 18 項目 において有意な向上を認め、心理的サポ ートの有効性を確認できた。 共著者： <u>山田裕生</u> ・高妻容一・土屋裕睦
スポーツ集団の心理 状態を可視化する一 集合的効力感尺度と 集団凝集性尺度から のアプローチ	共著	平成 24 年 11 月	日本スポーツ心理学会 第 39 回大会	スポーツ集団の集合的効力感と集団凝集 性を測定する尺度の翻訳及び因子構造の 確認と、実践研究での活用法の提示を行っ た。その結果、原版と同様の因子構造を確 認できた。 共著者：土屋裕睦・内田遼介・ <u>山田裕生</u> ・ 東亜弓・辰見康剛・神谷知里

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
スポーツ集団の心理 状態測定・評価用紙の 活用法(2)―集団内 成員の得点分布から 見たチームの特徴―	共 著 (筆頭)	平成 24 年 11 月	日本スポーツ心理学会 第 39 回大会	スポーツ集団 33 チームの集合的効力感と 集団凝集性の得点分布に着目し、内団成 員の散布図の特徴を検討した。その結果、 4 種類の類型を確認し、その特徴を明らか にした。 共著者：山田裕生・内田遼介・土屋裕睦
セルフトーク研究の 動向―スポーツメン タルトレーニングで の活用を目指して―	共 著 (筆頭)	平成 25 年 3 月	大阪体育学研究， (supplement) 2013 年 51 巻	メンタルトレーニングにおけるセルフ トーク活用の方向性を示すことを目的に、文 献検索を実施した。42 編の論文から、セル フトークの定義、研究内容の変遷および諸 外国におけるセルフトークの測定につい て整理し、今後は理論に基づいた研究の必 要性が示唆された。 共著者：山田裕生・土屋裕睦
An exploratory study on self-talk use among Japanese collegiate athletes	共 著 (筆頭)	平成 25 年 7 月	International Society of Sport Psychology 13th World Congress of Sport Psychology	翻訳版の Self-Talk Use Questionnaire を 用いて日本人競技者のセルフトークにつ いて調査を実施した。イギリスでは認めら れている男女差や競技種目差は認められ ず、言語や文化による違いも含めた検討の 必要性が示唆された。 共著者：Hiroki Yamada, Moe Machida, Hironobu Tsuchiya
Validity and reliability of the Function of Self-Talk Questionnaire among Japanese athlete.	共 著 (筆頭)	平成 26 年 8 月	Asian-South Pacific Association of Sport Psychology 2014	セルフトークの機能を測定する尺度とし て日本語版の Function of Self-Talk Questionnaire (FSTQ) の検討を実施した。 その結果、複数の手法により信頼性および 妥当性が確認されたものの、より日本人に 合った項目を作成する必要性が示唆され た。 共著者：Hiroki Yamada, Takumi Nakasuga, Eriko Katagami, Shohei Yamakoshi,

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
メンタルトレーニング コンサルタントに 必要なコンピテンシ ーを定義する.	共著	平成 29 年	日本スポーツ心理学会 第 44 回大会研究発表抄 録集, 8-9.	Hironobu Tsuchiya メンタルトレーニングコンサルタントの コンピテンシーについて, 先行研究をレビ ューし, 実践事例から得られた実践の知を 整理した. また, 定義されたコンピテンシ ーを向上させるための方略の提示も試み た. 共著者: 石原端子・小菅萌・遠藤拓哉・ <u>山 田裕生</u> ・栗林千聡・平真由子・荒木香織
ハイパフォーマンス スポーツの強化現場 における測定評価の 取り組み.	共著	平成 30 年 8 月	日本体育学会大会予稿 集第 69 回 48.	ハイパフォーマンススポーツにおける選 手のコンディションについて, 複数の専門 分野スタッフ (メディカル, 映像, 心理, 栄養, ストレングス) による測定評価を実 施した. 上記測定に関して全日本テコンド ー協会の取り組みについて報告を行った. 楠本一樹・角一哲児・加藤千穂・ <u>山田裕生</u> ・ 久野峻幸・小副川博道・橋口寛・小田俊明・ 大橋卓生
スポーツ心理学領域 におけるスーパーヴ ィジョンに必要なコ ンピテンシーを考え る.	共著	平成 30 年 10 月	日本スポーツ心理学会 第 45 回大会.	スポーツ心理学領域におけるスーパー場 ビジョン (SV) の重要性について確認す るために, 各国の資格制度の実施状況を整理 し, 制度内の SV の取り組みについて話題提 供を行った. 司会: 石原端子, 話題提供者: 荒木香織・遠藤拓哉・栗林千聡・小菅萌・ 小谷郁・平真由子・ <u>山田裕生</u>
エフォートフル・コン トロールがセルフ ワークの機能に与える 影響.	共著	平成 30 年 10 月	日本スポーツ心理学会 第 45 回大会	エフォートフルコントロール (EC) がセル フワークの機能に直接影響を与えると想 定したモデルを作成し, そのモデルに沿っ て両概念の関係性を検証することとした. 変数間の関係性は想定通りであったが, セ

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
				<p>ルフトークの機能について検討するために重要な変数を組み込むことができていなかったと考えられる。</p> <p>共著者：<u>山田裕生</u>・土屋裕睦</p>

